

### 帯広工業高から感謝状

帯広開建、帯広市、平田建設

#### 環境土木科課題研究に協力

【帯広発】帯広開建、帯広市、(株)平田建設(土幌、長谷川雅毅社長)は25日、帯広工業高校から感謝状を受け取った。同校環境土木科3年生の課題研究への協力に対するもの。中島泰彰校長が開建帯広道路事務所、佐藤秀則所長、市都市計画課都市計画係の原田康平主任、長谷川社長に感謝状を手渡し功績をたたえた。



中島校長から感謝状を受け取る長谷川社長(左)

同校環境土木科では、土木を体系的・系統的に理解し、技術を身に付けることを目的に、毎年3年生が外部との連携による探究学習に取り組んでいる。ことは、地域と連携した学習を実施。開建、市、平田建設の3者が協力した。開建担当の道の駅とふけ改善・橋梁点検・交通安全対策、市担当の公共交通機関改善班、平田建設担当の校内整備班および市立稲田小学校の4班に分かれて、6月から活動を進めてきた。

このほど、各班の作業が完了したことから、協力した3者と来年探究学習を行う環境土木科2年生を対象にした課題研究発表会を開催。各班が取り組んだ内容を紹介するとともに、施工管理の重要性など作業から得られた学びを報告した。

終了式では、蛭澤所長、原田主任、長谷川社長、稲田小の野中利晃校長があいさつ。蛭澤所長は「われわれが進めている最先端の取組を紹介していただき、素晴らしい発表だった」、原田主任は「今回の取組をもとに、素直に協力していただき、皆さんの協力を得ながら学びたい」と感謝を示した。

このあと、中島校長が蛭澤所長、原田主任、長谷川社長に感謝状を贈呈。生徒代表の相内大誠さんは「コロナ禍でインターシップなどに行けなかったが、皆さんの協力を得ながら学びたい」と話した。

野中校長は「今回の学習が今後の進路選択に良い影響となったのでは。地域の皆さんが喜ぶ結果となった」と謝意を示した。

長谷川社長は「建設業は担い手不足で、建設業離れが深刻化している」としながら「ぜひ皆さんの若い力を建設業で発揮してほしい」と期待を寄せた。

とに、これからの就職など社会に出ることを楽しみにしてほしい」と話した。

### 課題研究の成果を報告

帯広工高 地元受発注者が協力



【帯広発】帯広工業高校は25日、同校で2022年度課題研究報告会を開いた。全道の工業高校が初めて発注者と建設業者が研究に参画。環境土木科の3年生40人が都市設計や施工管理を1年かけて学び、活動内容と成果を

学びや貴重な経験を後輩に伝えた。発表した。工業科では1989年から、3年次に各自で課題を見つけて解決を図る課題研究を科目に設定。同校では、流木腐朽など独自の課題に取り組んできたが、より実践的な課題を求め、外部への協力を依頼した。

今回は帯広開建道路計画課が橋梁点検や事故対策、帯広市都市政策課が公共交通、平田建設(本

社・土幌)が同校敷地内の階段と市内の稲田小で屋外トイレ前のブロック修繕に協力。ブロック修繕では、施工管理について工程・安全・品質・原価の4つの管理に分けて紹介し、写真を使いながら現場の進捗を説明した。

発表会には同科2年生40人が同席し、3年生の学びや気付き、課題をまとめた発表に耳を傾けた。終了後には協力者の代表に感謝状を贈った。

北海道開発局に内定している相内大誠さんは「コロナ禍でインターシップができない中、学ぶ機会に恵まれた。この経験を糧に安心安全で住みよいまちづくりができるよう務めたい」と意気込んだ。

岡本博教諭は「新年度も地域連携の課題研究を実施する考えで、発注者には協力を依頼して、建設業者からは支援したいとの声が複数届いている」と話した。